

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2004-537291(P2004-537291A)

【公表日】平成16年12月16日(2004.12.16)

【年通号数】公開・登録公報2004-049

【出願番号】特願2002-592480(P2002-592480)

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 K 38/45

A 6 1 P 25/18

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 43/00

C 0 7 K 16/40

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/10

C 1 2 N 9/12

C 1 2 Q 1/68

G 0 1 N 33/15

G 0 1 N 33/50

G 0 1 N 33/566

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 P 25/18

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 43/00 1 0 5

C 0 7 K 16/40

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 9/12

C 1 2 Q 1/68 Z

G 0 1 N 33/15 Z

G 0 1 N 33/50 Z

G 0 1 N 33/566

C 1 2 N 5/00 B

A 6 1 K 37/52

【手続補正書】

【提出日】平成17年5月10日(2005.5.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

配列番号 1 を含んで成る単離されたポリヌクレオチド。

【請求項 2】

配列番号 2 を含んで成るポリペプチドをコードする配列を含んで成る単離されたポリヌクレオチド。

【請求項 3】

請求項 1 記載のポリヌクレオチドを含んで成る発現ベクター。

【請求項 4】

前記ベクターがプラスミドもしくはウイルス粒子である、請求項 3 記載の発現ベクター。  
。

【請求項 5】

請求項 3 記載のベクターで形質転換された宿主細胞。

【請求項 6】

前記細胞が、細菌細胞、酵母細胞、昆虫細胞もしくは哺乳動物細胞である、請求項 5 記載の形質転換された宿主細胞。

【請求項 7】

a ) 請求項 3 記載の組換え発現ベクターを適合性の宿主細胞に導入すること；  
b ) 配列番号 2 を含んで成るポリペプチドの発現のための条件下で前記宿主細胞を成長させること；および  
c ) 前記ポリペプチドを回収すること  
の段階を含んで成る、前記ポリペプチドの製造方法。

【請求項 8】

請求項 1 記載のポリヌクレオチドおよび担体もしくは希釈剤を含んで成る組成物。

【請求項 9】

請求項 3 記載の組換え発現ベクターおよび担体もしくは希釈剤を含んで成る組成物。

【請求項 10】

請求項 1 記載のポリヌクレオチドによりコードされる単離されたポリペプチド。

【請求項 11】

配列番号 2 を含んで成る単離されたポリペプチド。

【請求項 12】

前記ポリペプチドが配列番号 2 を含んで成る、請求項 10 記載のポリペプチド。

【請求項 13】

請求項 10 記載のポリペプチドおよび担体もしくは希釈剤を含んで成る組成物。

【請求項 14】

請求項 11 記載のポリペプチドおよび担体もしくは希釈剤を含んで成る組成物。

【請求項 15】

請求項 11 記載のポリペプチド上のエピトープに結合する単離された抗体。

【請求項 16】

前記抗体がモノクローナル抗体である、請求項 15 記載の抗体。

【請求項 17】

請求項 15 記載の抗体および担体もしくは希釈剤を含んで成る組成物。

【請求項 18】

請求項 11 記載のポリペプチドに結合する抗体を含んで成るキット。

【請求項 19】

請求項 1 記載のポリヌクレオチドを含んで成るキット。

【請求項 20】

請求項 11 記載のポリペプチドを含んで成るキット。

【請求項 21】

a ) 請求項 11 記載のポリペプチドを化合物と接触させること；および  
b ) 前記化合物が前記ポリペプチドに結合するかどうかを決定すること  
の段階を含んで成る、前記ポリペプチドを結合する化合物の同定方法。

**【請求項 2 2】**

前記ポリペプチドへの前記化合物の結合がタンパク質結合アッセイにより測定される、  
請求項 2 1 記載の方法。

**【請求項 2 3】**

前記タンパク質結合アッセイが、ゲルシフトアッセイ、ウェスタンプロット、放射標識  
競争アッセイ、ファージに基づく発現クローニング、クロマトグラフィーによる共分画、  
共沈殿法、架橋、相互作用捕捉 / 2 ハイブリッド分析、サウスウェスタン分析および E L  
I S A よりなる群から選択される、請求項 2 2 記載の方法。

**【請求項 2 4】**

a ) 請求項 1 記載のポリヌクレオチドを化合物と接触させること；および  
b ) 前記化合物が前記ポリヌクレオチドを結合するかどうかを決定すること  
の段階を含んで成る、前記ポリヌクレオチドを結合する化合物の同定方法。

**【請求項 2 5】**

結合がゲルシフトアッセイにより測定される、請求項 2 3 記載の方法。

**【請求項 2 6】**

a ) 請求項 1 1 記載のポリペプチドを化合物と接触させること；および  
b ) 前記ポリペプチド活性が調節されたかどうかを決定すること  
の段階を含んで成る、前記ポリペプチドの活性を調節する化合物の同定方法。

**【請求項 2 7】**

前記活性が基質のリン酸化である、請求項 2 6 記載の方法。

**【請求項 2 8】**

前記活性が J N K 活性化である、請求項 2 7 記載の方法。

**【請求項 2 9】**

請求項 2 1 記載の方法により同定される化合物。

**【請求項 3 0】**

請求項 2 4 記載の方法により同定される化合物。

**【請求項 3 1】**

請求項 2 6 記載の方法により同定される化合物。